

交際（世帯外の人）のための支出

- 家計調査結果より -

家計調査では、調査世帯の方々に対して購入した商品(財)やサービスを世帯内で使うか、世帯外の人のために使うか(交際費か)がわかるように家計簿に記帳をお願いしています。

そこで、二人以上の世帯の結果から、交際用に購入した商品(財)やサービス(以下「交際用購入¹」という。)を見てみましょう。

1 ここでは、「交際費」のうち、お祝い金といった現金で世帯外の人に渡す支出を除いています。

低下する交際用購入の割合

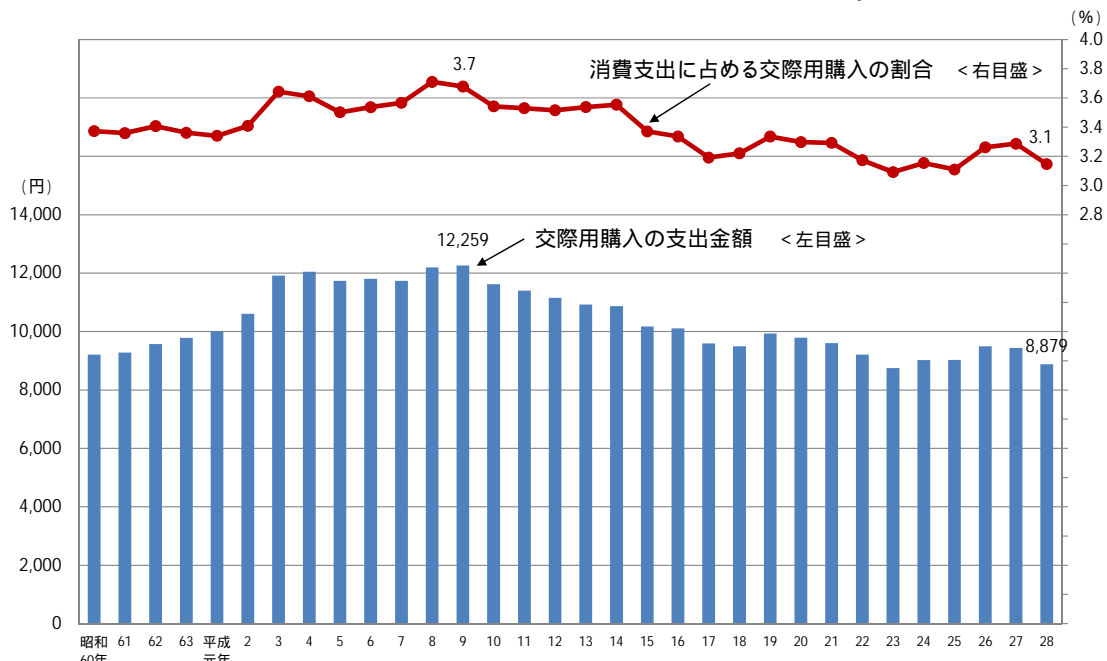
昭和60年以降について、1世帯当たり1か月間の交際用購入の推移を見ると、平成9年が12,259円と最も多く、その後は減少する傾向にあって、平成28年では8,879円と、9年に比べて3,380円、率にすると27.6%も減少しています。

また、消費支出²に占める割合も平成9年は3.7%でしたが、28年は3.1%と0.6ポイント低下しています。

これは、人口の少子高齢化により送り先となる子や孫が少なくなったことや、親類縁者の数も少なくなってきたことが一因とみられます(図1)。

2 いわゆる生活費のことで、日常の生活を営むに当たり必要な商品やサービスを購入して実際に支払った金額をいいます。

図1 交際用購入の支出金額と消費支出に占める割合の推移(昭和60~平成28年)



注) 平成11年までは農林漁家世帯を除く結果。

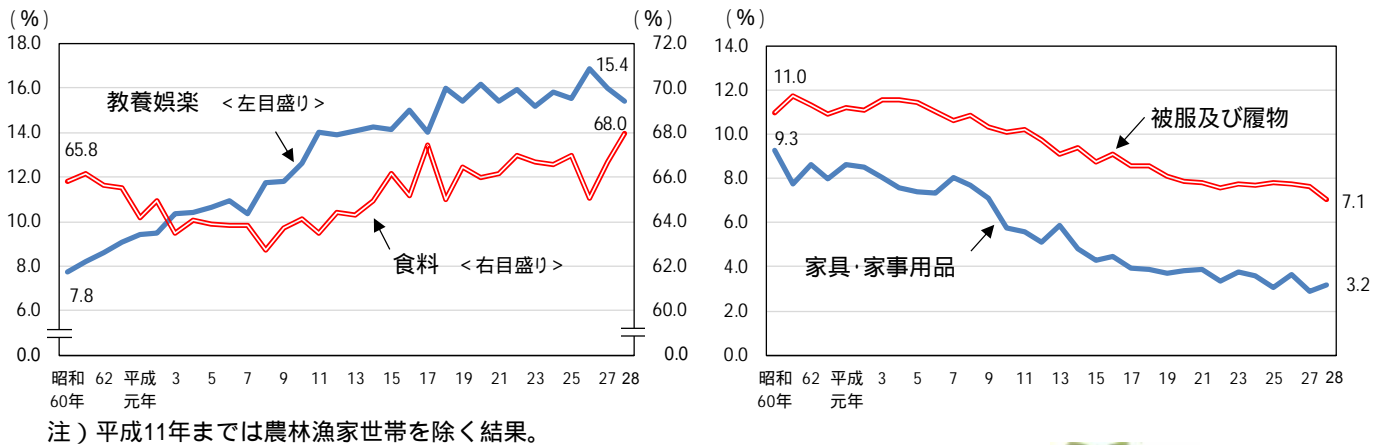
教養娯楽の割合が上昇

次に、交際用購入全体に占める費目別の割合を見ると、教養娯楽、食料は上昇する傾向にあります。特に教養娯楽は、昭和60年は7.8%でしたが、平成28年は15.4%と7.6ポイントも高くなっています。教養娯楽の内訳を見ると宿泊代やパック旅行費の割合が上昇しています。

これは、核家族化が進んだことで、同居していない子や親と旅行した際の費用を支払う世帯が多くなっているためではないかとみられます。

一方、家具・家事用品、被服及び履物の割合は低下する傾向にあります。このうち、被服及び履物については、低価格の商品が多く販売されるようになったことも低下した一因とみられます(図2)。

図2 交際用購入全体に占める費目別割合の推移(昭和60~平成28年)



ようかんやメロンは約4割が贈答用としての購入

最後に、各品目に占める交際用購入の割合³を見ると、お宮参りや七五三の際に着るような子供用和服が金額は少ないものの61.3%と最も高く、次いで乳児服が47.4%となっています。また、ランドセルなどの通学用かばんも40.7%となっており、これらの子供関係の品目は4割以上が贈り物として購入されていることが分かります。

食品では、菓子のようなようかんが42.4%、まんじゅうが39.5%となっているほか、生鮮果物のメロンが39.1%、桃が38.1%と、これらの品目も約4割が贈答用として購入されています(図3)。

3 月次結果の審査用資料を基に算出。

図3 交際用購入の割合が高い品目(平成28年)

